

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 9 月 1 日

氏名 (フリガナ)	若槻 実祐 (ワカツキ ミユ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	東京女子医科大学
学年	5年

この度、日米医学医療交流財団より助成を受け、医学部夏期集中医学英語研修に参加させて頂き、多くの貴重な経験をさせて頂きました。

研修では主に **History taking** と **Case presentation** の実践練習を行いました。

朝と夜にレクチャーを受けた後、ハワイ大学の医学生と医療面接をし、それをまとめて上級医にプレゼンテーションする練習を繰り返し行いました。学生や先生方からその場でフィードバックを頂けるので、練習を繰り返すうちに自然と型を身に付けることができました。特に **The Queen's Medical Center** で **hospitalist** としてご活躍されている野木真将先生からは **History taking** や **Clinical reasoning**、**Case presentation** についてのみならず、米国の卒後医学教育についても一つ一つ丁寧に教えて頂けて具体的なイメージを持つことができました。更に先生が今までどのように勉強されてきたのかを直接伺うことができたので、自らが心に決めた目標を達成するために努力し続けることがいかに大切であるかを改めて実感することができました。

レクチャーでは、聖ルカクリニックで院長をされている小林恵一先生より、海外留学で求められることや英語の学習法についてのお話を頂きました。また、小林先生や **Kathryn Shon** 先生、荻原慎先生が、ご自身が実際に経験された症例に基づく **PBL** を行ってくださったので、医学英語のみならず医学知識も深めることができ、また思考のプロセスについて大変啓発される場所がありました。町淳二先生からは、先生が医師を目指された理由や医師が必要とされる能力についてのお話を伺うことができました。その他、ハワイの病院見学や現地で働かれている先生方のお話を通じて、米国の医療の現状と課題についての見識を深めることができました。

また何よりも、海外留学を目指す意識の高い同志達から大きな刺激を受けました。このことによって、長期的な目標を考える上での視野が広がり、更に近々にやらなければならないことが具体的に見えてきたことは大きな収穫であったと思います。

このような環境に身を置けたことに感謝し、経験した全てのことをこれからは生かして参りたいです。日米医学医療交流財団の方々、東海大学、神戸大学の先生方、ハワイでお世話になった先生方、**Hawaii Tokai International College** の職員の皆様に心より御礼申し上げます。有難うございました。